

令和 8 年度
岡山県内におけるカワウ生息状況調査報告書
(コロニー営巣及びねぐら利用羽数規模調査)



日本野鳥の会岡山県支部

令和 8 年 7 月

も く じ

I. 目的	3
II. 調査の内容	3
III. 調査方法	3
1. 調査時期	
2. 調査場所	
3. 調査事項	
4. 繁殖状況調査（コロニー営巣規模調査）	
繁殖段階の判別	
調査時の調査表への観察状況表示方法	4
IV. 調査結果（コロニー営巣数規模調査）	4
1. 繁殖状況調査（コロニー営巣数規模調査）	
2. 繁殖期のコロニー営巣状況	
3. 営巣コロニー15箇所内、上位5位のコロニー	
4. 各水系別 カワウ繁殖期営巣数の経年変化	
5. 岡山県全域のカワウ営巣数経年変化	
6. 各水系の主なコロニーにおける営巣数経年変化	
V. カワウ営巣数について考察	11
VI. ねぐら利用個体羽数調査	12
1. ねぐら利用個体羽数調査の方法	
2. カワウ繁殖期の個体羽数調査結果	
3. 各河川水系でのカワウ確認羽数割合	
4. 確認された「ねぐら場所」とその羽数の大きさ	
5. 各水系別 カワウ生息羽数 経年変化	
6. 岡山県全域の夏季カワウ生息数経年変化	
7. 各水系の主なねぐらにおける利用羽数の経年変化	
VII. カワウねぐら利用羽数について考察	19

岡山県内におけるカワウ生息状況調査（夏季）

I. 目的

近年、個体数・分布域が増加・拡大し、農林水産業等に被害を与えているカワウについて、生息状況を把握し、今後の鳥獣被害防止対策の適正な推進のための基礎資料とする。

II. 調査内容

県内のカワウの繁殖地（以下「コロニー」という）及びねぐらを観察し、カワウの生息状況について調査した。

III. 調査方法

1. 調査時期

夏季（4月下旬～5月下旬頃）

2. 調査場所

県内のコロニー及びねぐら

3. 調査事項

ア 繁殖状況調査（コロニー営巣数規模調査）

① 利用樹種、樹高等（計測可能な範囲に限る）

② 営巣数

イ コロニー及びねぐら利用羽数調査

① コロニー及びねぐら入りしている個体数

② コロニー及びねぐらへ帰還してくる個体数

4. 繁殖状況調査（コロニー営巣規模調査）

カワウは産卵から巣立ちまでの期間が最短でおよそ70日である。この間に調査を行えば、重複や数え漏らしなどを少なく抑えることができる。

カワウの巣のステージ（産卵後の日数）は、大まかに外見から判断することができる。

D段階、E段階（次頁参照）のヒナ数を調査することで巣のヒナ数の推定ができる。

繁殖段階の判別

1： 空巣

2： 親 造巣行動

3： 親 ディスプレイ その他

4： 親 抱卵・・・・・・・・・・・・・・・・・・親：ステージA

胸から腹をしっかりと巣に押し付け、尾羽が背に対して垂直に上に

表一1 カワウのコロニー繁殖状況調査表(令和 8年度)

吉井川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
1-1	吉井川	岡山市東区川口 吉井川 中州	5月15日	74		109
1-2	吉井川	和気町塩田 備作大橋下流	5月4日	22		15
1-3	吉野川	美作市英田巨勢 位田橋下流	5月14日	4		3
1-4	琵琶首川	奈義町御所野 神五郎池	5月15日	0		0
1-5	肘川	勝央町福吉 切池	5月15日	33		32
	吉井川 水系 小計			133		159

旭川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
2-1	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	4月24日	352		290
2-2	旭川	岡山市北区御津野々口	5月19日	20		16
2-3	旭川	岡山市建部町吉田 中吉橋上流	5月7日	9		12
2-4	旭川	美咲町西坪和 江与味橋上	5月24日	33		18
2-5	丸島新田	岡山市南区箕島 竹田下池	5月4日	0		0
	旭川 水系 小計			414		336

高梁川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
3-1	高梁川	倉敷市水島川崎通り汐入川遊水池	5月5日	67		73
3-2	高梁川	総社市福谷	5月9日	44		32
3-3	高梁川	高梁市 中井町 西方	5月7日	64		65
3-4	領家川	高梁市川上町領家 領家橋	5月5日	7		6
3-5	小田川	井原市 木之子町	5月24日	60		49
	高梁川 水系 小計			242		225

海岸域						
	所在	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
4-1	池	瀬戸内市牛窓町鹿忍 池	5月4日	18		21
4-2	海岸域	倉敷市児島通生 葛島	5月2日	13		18
	海岸域及び河川以外での場所 小計			31		39

繁殖期のカワウの営巣数(コロニー17-2=15箇所)				820		759
----------------------------	--	--	--	-----	--	-----

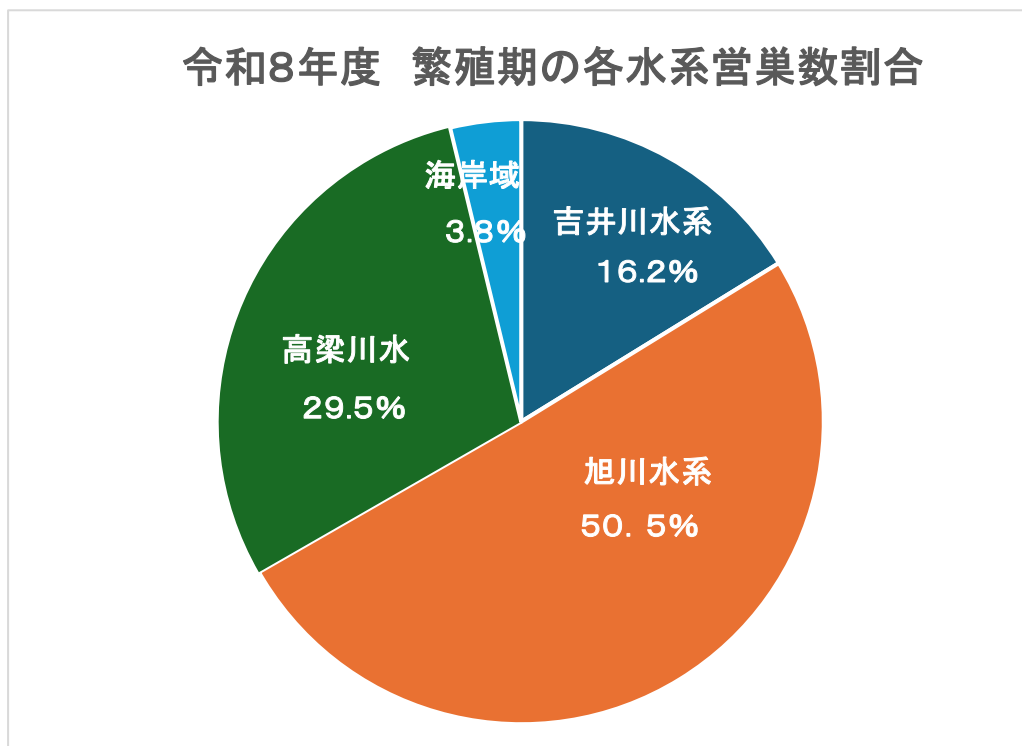
2. 繁殖期のコロニー営巣状況

吉井川水系での営巣数は133 巣（昨年159 巣）昨年より26 巣減少している。一昨年は112 巣であったのでそれよりは21 巣多い結果でした。旭川水系では414 巣（昨年は336 巣）昨年より78 巣増加している。一昨年は386 巣であったのでそれよりさらに28 巣増加している。

高梁川水系では242 巣（昨年は225 巣）昨年より17 巣増加、一昨年は205 巣であったので37 巣の増加であった。海岸域では31 巣（昨年は39 巣）昨年より8 巣減少、一昨年は49 巣であったので18 巣も減少している。

全県下の営巣数では820 巣を確認した。昨年は759 巣であったので61 巣の増加であった。一昨年は752 巣を確認しているので68 巣の増加であった。

その水系別割合を図－1 に示す。



図－1 令和8年度 繁殖期の各水系におけるコロニーでの営巣数割合

表－2 直近5年間のコロニー営巣数比較表

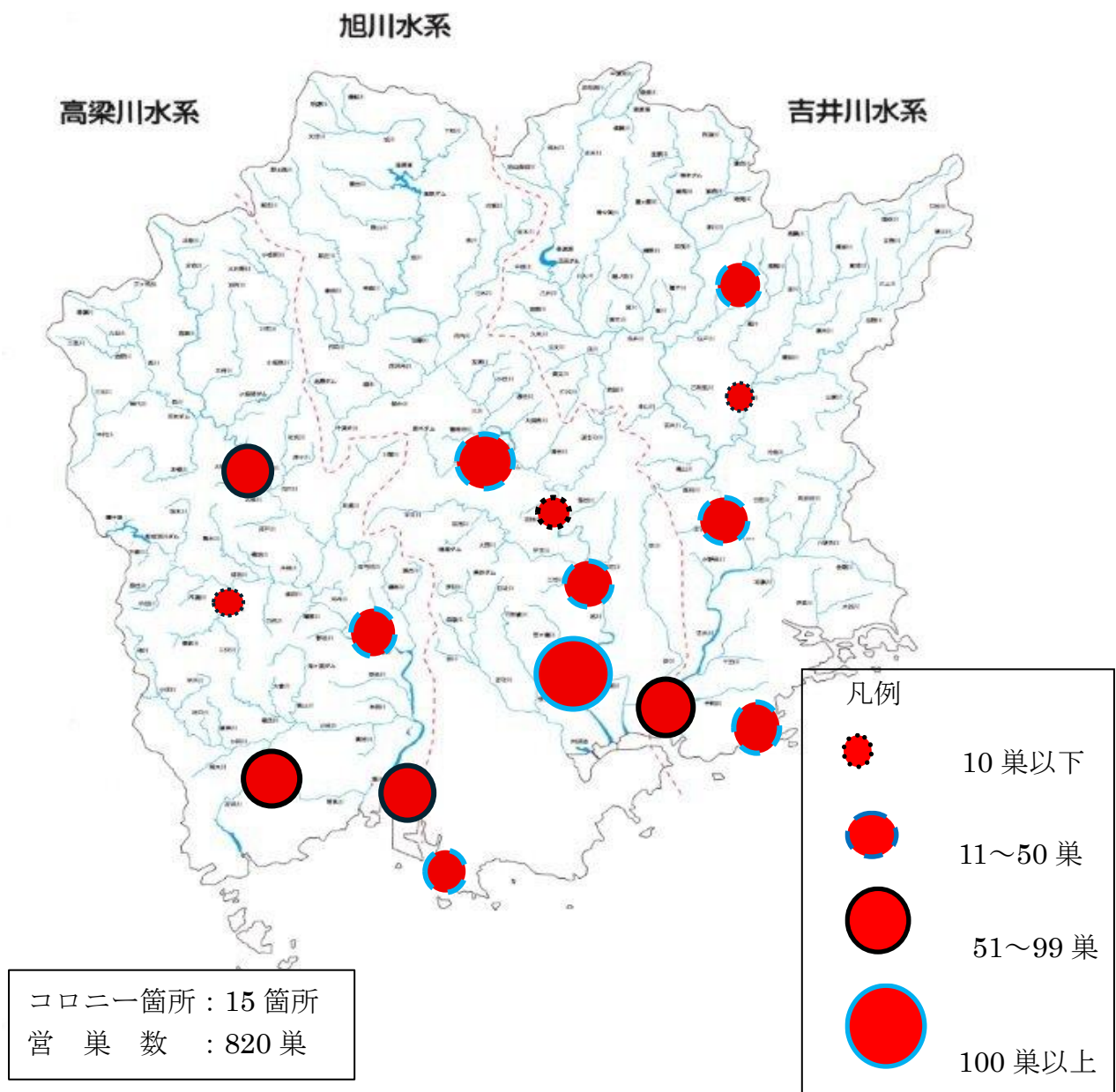
水系名	令和8年度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
吉井川	133	159	112	130	119
旭川	414	336	386	361	433
高梁川	242	225	205	235	223
海岸域	31	39	49	91	155
合 計	820	759	752	817	930

県内全体的には減少傾向に見えていたが、再び増加に転じてきた。このまま増加してゆくとは考え難いので、しばらく状況を見てゆく必要がある。

3. 営巣コロニー15箇所の内、上位5位のコロニー。

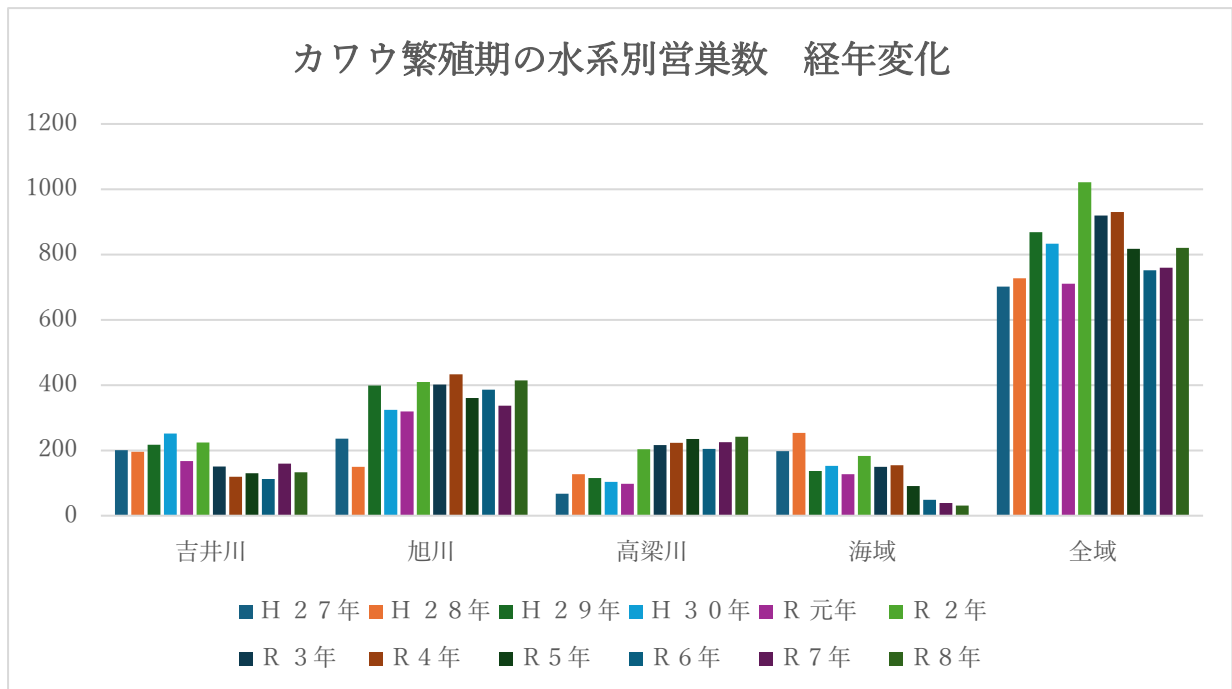
() 内は昨年の営巣数

- ① 岡山市中区中島 旭川 三野公園前：352 巣 (290 巣：昨年 1 位)
 - ② 岡山市東区川口 吉井川中州：74 巣 (109 巣：昨年 2 位)
 - ③ 倉敷市水島川崎通り汐入川遊水池：67 巣 (73 巣：昨年 3 位)
 - ④ 高梁市中井町西方：64 巣 (65 巣：昨年 4 位)
 - ⑤ 井原市木之子町 小田川岸边：60 巣 (49 巣：昨年 5 位)
- 昨年と同順位でした。



図－2 令和8年度 繁殖期のカワウ営巣場所図（コロニー分布図）

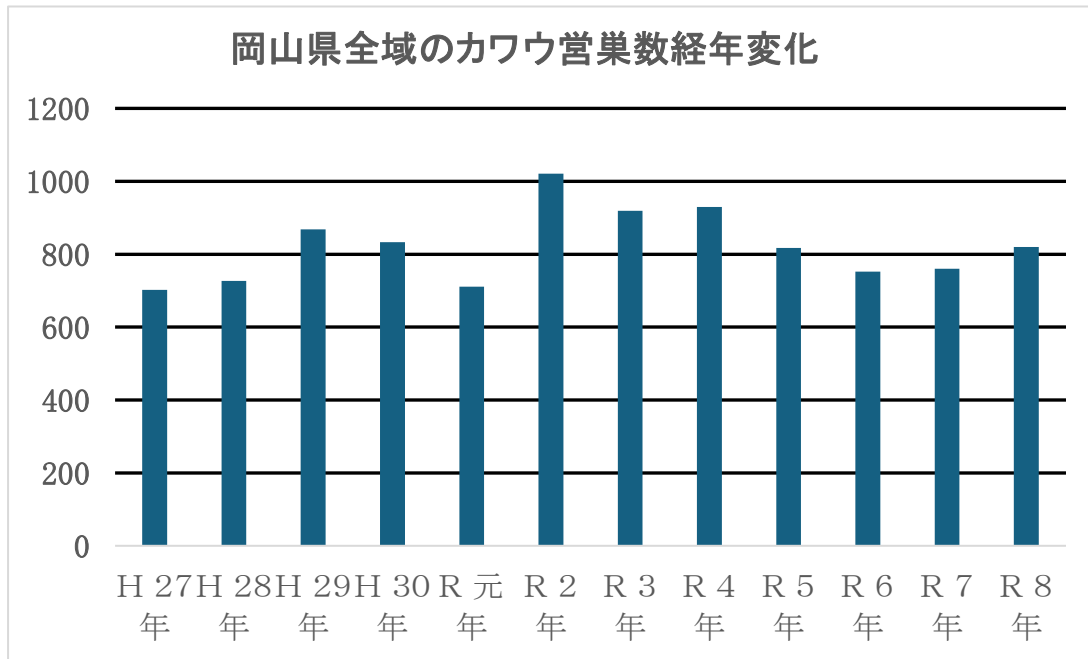
4. 各水系別 カワウ繁殖期営巣数の経年変化



図ー3 カワウ繁殖期の水系別営巣数の経年変化図

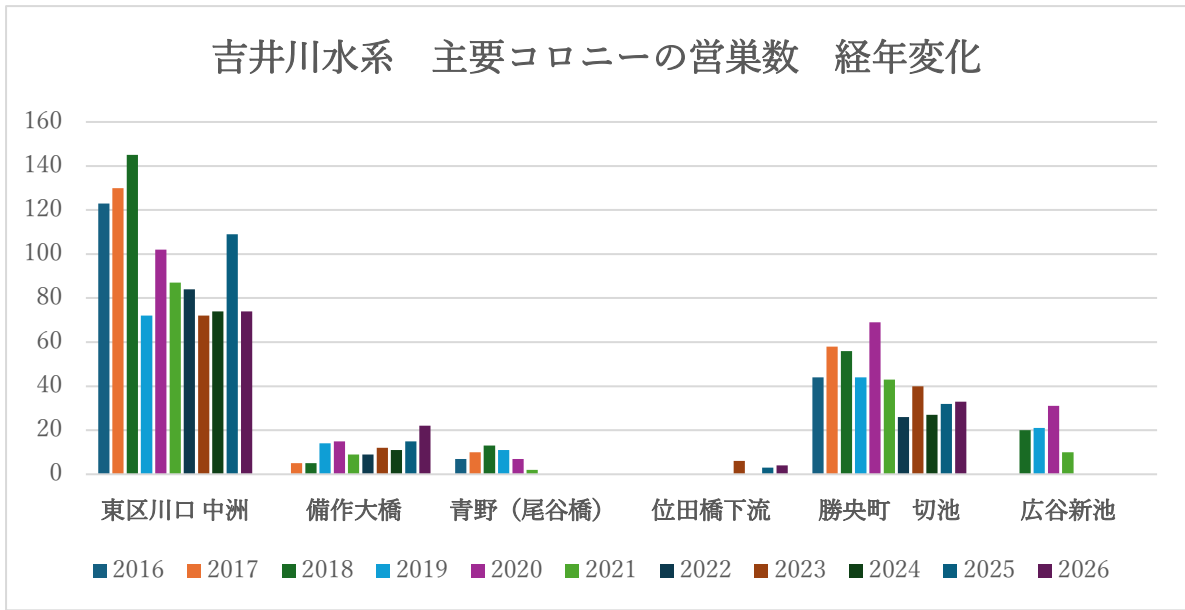
全域としては、令和2年度から令和6年度までは減少傾向だが令和7年度からは増加が見られる。海岸域での減少傾向が強い、他の吉井川水系や旭川水系、高梁川水系では、ほぼ横ばいで営巣数が維持されている。その中でも旭川水系が突出して営巣数が多い。

5. 岡山県全域のカワウ営巣数経年変化



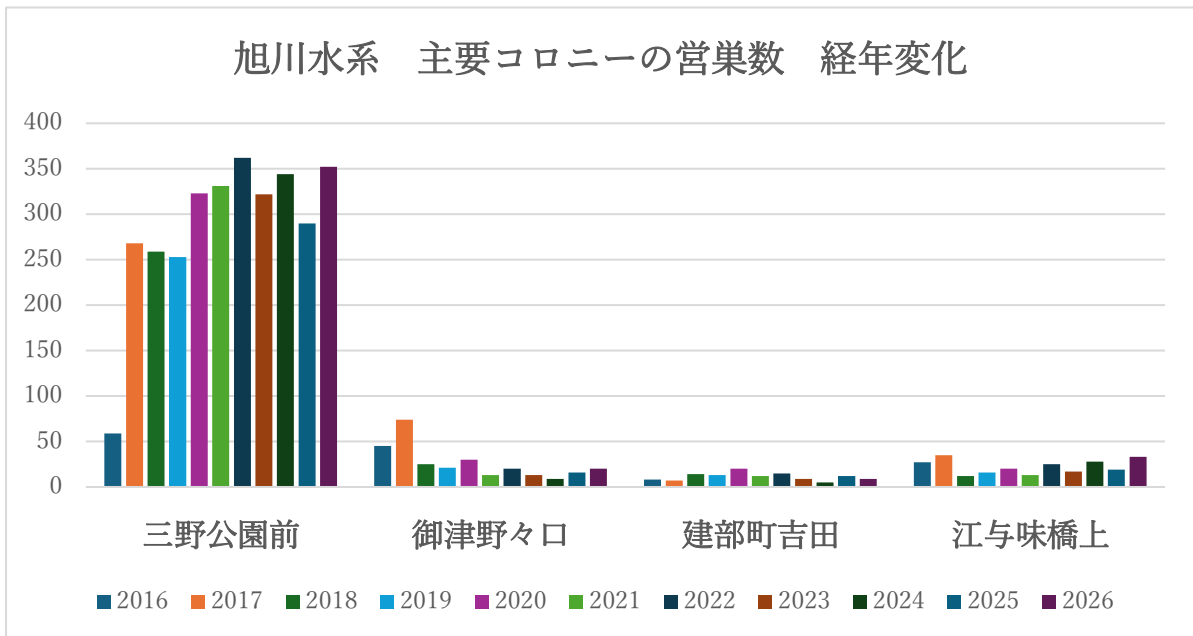
図ー4 岡山県全域のカワウ営巣数経年変化

6. 各水系の主なコロニーにおける営巣数経年変化



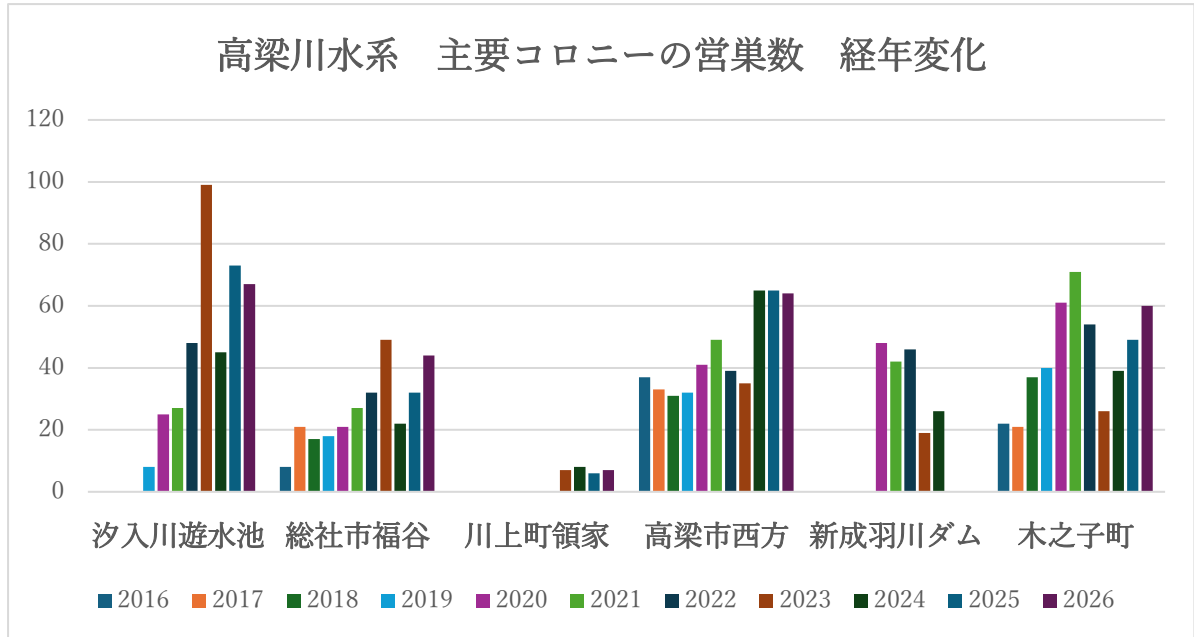
図－5 吉井川水系の主要コロニー営巣数 経年変化図

吉井川水系においては、岡山市東区川口の中州コロニーが長年その営巣数を維持している。また、県中北部のコロニーとして勝央町の切池では忌避テープによる阻害を行い一時は減少したものの復活傾向にある。和気町塩田備作大橋下流のコロニーが大きくなりつつある。



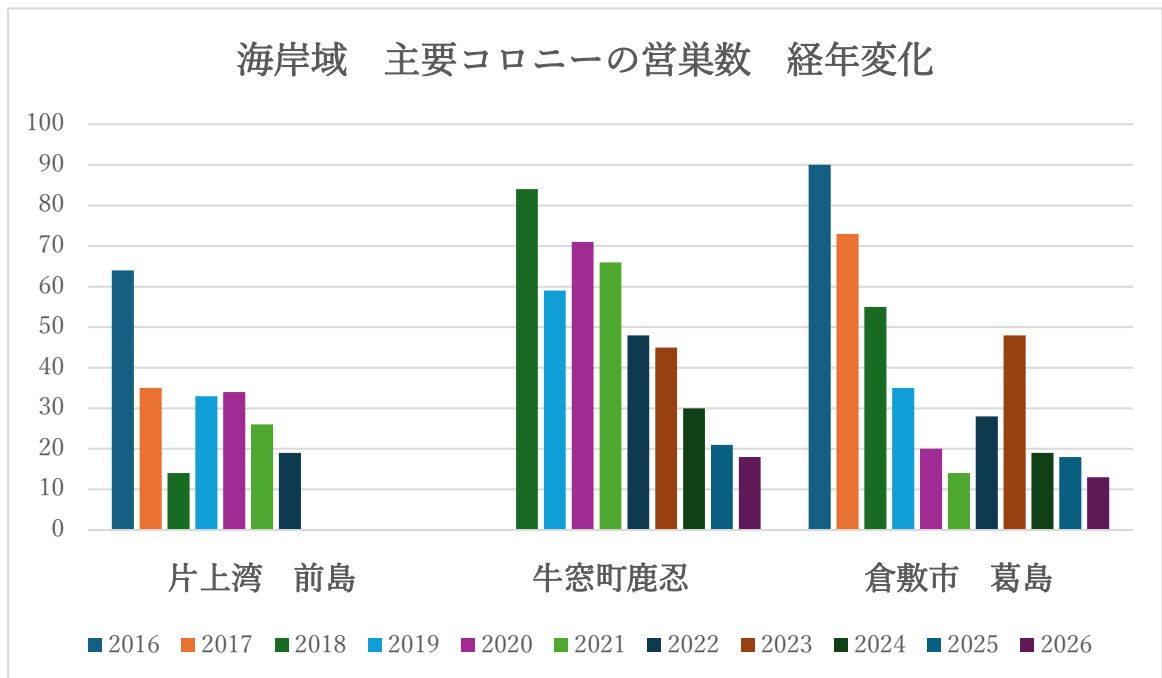
図－6 旭川水系の主要コロニー営巣数 経年変化図

旭川水系においては、県内最大の営巣数を誇る三野公園前のコロニーがある。御津野々口と建部町吉田のコロニーは大きくはないが長年維持されている。美咲町の江与味橋上のコロニーは県北部コロニーとして営巣数を維持している。



図－ 7 高梁川水系の主要コロニー営巣数 経年変化図

高梁川水系においては、汐入川遊水池が数大きな営巣数を維持している。また、総社市福谷、井原市木之子町などの主要なコロニーで再びその営巣数を増やしている。川上町領家は小さいながら4年連続して営巣確認されている。高梁市西方は高梁川の上流部において大きな営巣数を維持している。新成羽川ダムの営巣地は昨年に続き今年も営巣を確認できなかった。



図－ 8 海岸域の主要コロニー営巣数 経年変化

備前市片上湾内にある前島のコロニーは2023年以降営巣が確認されていない。

瀬戸内市牛窓町鹿忍の河岸にある池で営巣する数は年々減少傾向にある。池の中にある枯れ木に営巣しているが、その枯れ木が年々少なくなり巣を掛ける場所が無くなってきているのが大きな要因となっている。倉敷市水島港の入り口付近にある葛島のコロニーは増減を繰り返している。県内の島で営巣しているのは葛島だけとなっている。今後の動向を注視する必要がある。

V. カワウの営巣数について考察

岡山県内全域におけるカワウの営巣数は820巣であった。(昨年は759巣) 6年前の令和2年度において、1021巣の最大巣数を確認して以来、昨年までは減少傾向にあったが本年は増加に転じている。800巣ほどを中心として増減を繰り返している様に推察される。本年、昨年より増加したコロニーは15箇所中6箇所、減少したコロニーも5箇所そして営巣数はほぼ横ばいだったコロニーが4箇所であった。

増加したコロニーの中で注目するのは、岡山市中区中島 三野公園前のコロニーで河川内の立ち木(川柳と思われる)を長年使用しているのも、木の勢いが衰えてきている様に思える。これらの樹木がいつまで持つか気になるところである。その典型的事例が牛窓町鹿忍の池で、2018年当初は84巣あった。その後、池の立ち木が枯れ、営巣できる樹木が減少し本年は13巣のみになった。今後増加する可能性はないので、このような河川内や湖沼の立ち木だけでなく、岡山市東区川口の吉井川中州のコロニーの樹木の衰退等、今後の動向について注視する必要がある。

VI. ねぐら利用個体羽数調査

1. ねぐら利用個体羽数調査の方法

カワウの繁殖期における営巣数調査とは別に事前にその所在地を調査しておいたカワウの「ねぐら及びコロニー」において、日没少し前から調査を開始した。

まず、すでに「ねぐら入り」しているカワウ個体羽数をカウントし、それに加えて、ねぐら入りしてくるカワウ個体羽数を飛来方向別に時間を区切ってカウントして記録した。調査前にすでに「ねぐら入り」していた個体羽数と新たに飛来して「ねぐら入り」した羽数を合計して総羽数とした。

2. カワウ繁殖期の個体羽数調査結果

令和8年度の岡山県内で繁殖期に生息するカワウの「ねぐら及びコロニー」は23箇所（昨年は24箇所）で昨年より1箇所減っていた。個体羽数は2,643羽（昨年は2,549羽）で昨年より94羽数増加していた。その内、吉井川水系での「ねぐら場所」は7箇所（昨年は8箇所）で個体羽数は399羽（昨年は354羽）、旭川水系での「ねぐら場所」は6箇所（昨年は6箇所）で個体羽数は1,174羽（昨年は1,140羽）、高梁川水系での「ねぐら場所」は7箇所（昨年は7箇所）で個体羽数は804羽（昨年は736羽）海岸域での「ねぐら場所」は3箇所（昨年も3箇所）で個体羽数は266羽（昨年は319羽）であった。

本年度のカワウ営巣場所（コロニー）は15箇所であるのに対して「ねぐら場所」として確認した場所は23箇所であった。8箇所はコロニーとしての利用はなく「夏ねぐら」として利用している。繁殖期における「夏ねぐら」を利用する個体は繁殖に直接関与しない若鳥の集まりと言われる。

確認羽数は2,643羽である。一方営巣数は820巣なので繁殖に関わっている個体数は1巣に♂♀2羽が関与していると考えられるので営巣に関わる羽数は 820×2 で1,640羽と推測される。これらから営巣に関与しない個体数は1,003羽と推測される。この中から2～3年経過して繁殖可能個体に成長してゆくと思われる。繁殖予備軍がまだまだ多数控えていることが伺える。

ねぐら及びコロニー中で100羽を超える大型ねぐらは7か所（昨年は7か所）だった。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① 岡山市中区中島 三野公園前 | 975羽（昨年は1位 963羽） |
| ② 倉敷市水島川崎通り 汐入川遊水池 | 211羽（昨年は3位 199羽） |
| ③ 岡山市東区川口 吉井川中州 | 203羽（昨年は2位 210羽） |
| ④ 倉敷市児島通生 葛島 | 195羽（昨年は4位 163羽） |
| ⑤ 井原市木之子町（小田川） | 184羽（昨年は6位 141羽） |
| ⑥ 高梁市中井町西方 | 159羽（昨年は5位 156羽） |
| ⑦ 総社市 福谷 | 118羽（昨年はランク外 98羽） |

次ページ 表－3に確認個体数を示す。

表-3

カワウのねぐら利用個体数調査表(令和 8年度)

吉井川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年個体数	備考	昨年個体数
1-1	吉井川	岡山市東区川口 吉井川 中州	5月15日	203		210
1-2	吉井川	和気町塩田 備作大橋下流	5月4日	66		44
1-3	吉井川	津山市瓜生原 押淵上バス停対岸	5月18日	6		7
1-4	吉井川	津山市宮尾 新錦橋上流	5月19日	0		8
1-5	吉井川	鏡野町 奥津湖 苫田大橋下流	5月19日	25		26
1-6	吉野川	美作市英田青野 尾谷橋下流	5月14日	19		4
1-7	吉野川	美作市英田巨勢 位田橋下流	5月14日	9		6
1-8	琵琶首川	奈義町御所野 神五郎池	5月15日	0		0
1-9	肘川	勝央町福吉 切池	5月15日	71		49
	吉井川水系 小計			399		354

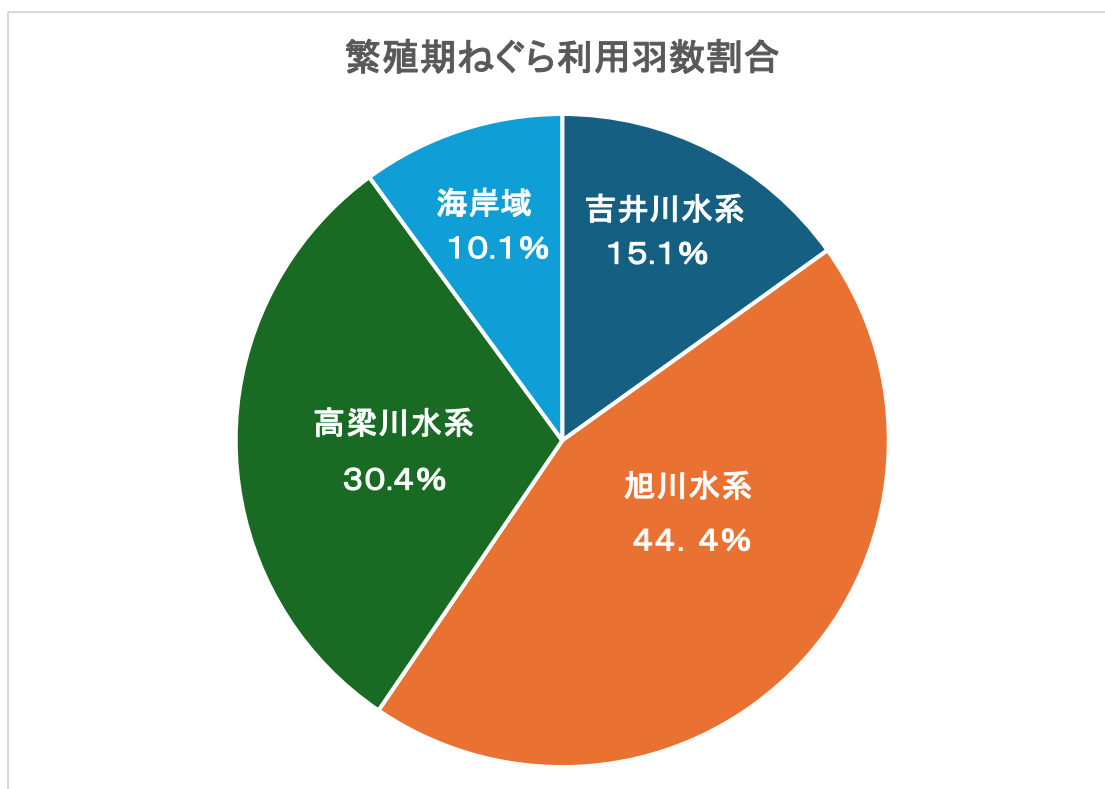
旭川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年個体数	備考	昨年個体数
2-1	百間川	岡山市中区沖元 百間川河口 中洲	5月11日	36		—
2-2	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	4月24日	975		963
2-3	旭川	岡山市北区御津野々口	5月19日	69		59
2-4	旭川	岡山市北区御津矢原	5月19日	0		1
2-5	旭川	岡山市建部町吉田 中吉橋上流	5月7日	31	下流へ行く	66
2-6	旭川	美咲町西堀和 江与味橋上流	5月24日	37		45
2-7	砂川	岡山市東区瀬戸町笹岡(砂川)	5月12日	26		6
2-8	丸島新田	岡山市南区箕島 竹田下池	5月4日	0		0
	旭川水系 小計			1174		1140

高梁川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年個体数	備考	昨年個体数
3-1	高梁川	倉敷市水島川崎通り汐入川遊水池	5月5日	211		199
3-2	高梁川	倉敷市酒津 八幡山 裾	5月7日	86		86
3-3	高梁川	総社市福谷	5月9日	118		98
3-4	高梁川	高梁市 中井町 西方	5月7日	159		156
3-5	領家川	高梁市川上町領家 領家橋	5月5日	21		18
3-6	西川	新見市哲多町宮川内 河本ダム	5月5日	25		38
3-7	小田川	井原市 木之子町	5月24日	184		141
	高梁川水系 小計			804		736

海岸域						
No.	所在	確認した場所	調査日	本年個体数	備考	昨年個体数
4-1	池	瀬戸内市牛窓町鹿忍 池	5月4日	40		109
4-2	児島湾	岡山市南区宮浦 高島	5月11日	0		0
4-3	海岸域	倉敷市児島通生 葛島	5月2日	195	幼鳥が多い	163
4-4	深山公園	玉野市田井 深山公園 中池	5月7日	31		47
	海岸域及び河川以外での場所			266		319

繁殖期のカワウのねぐら数(28-5=23箇所)				2643		2549
-------------------------	--	--	--	------	--	------

3. 各河川水系でのカワウ確認羽数割合



図－9 カワウ繁殖期のねぐら利用羽数割合図

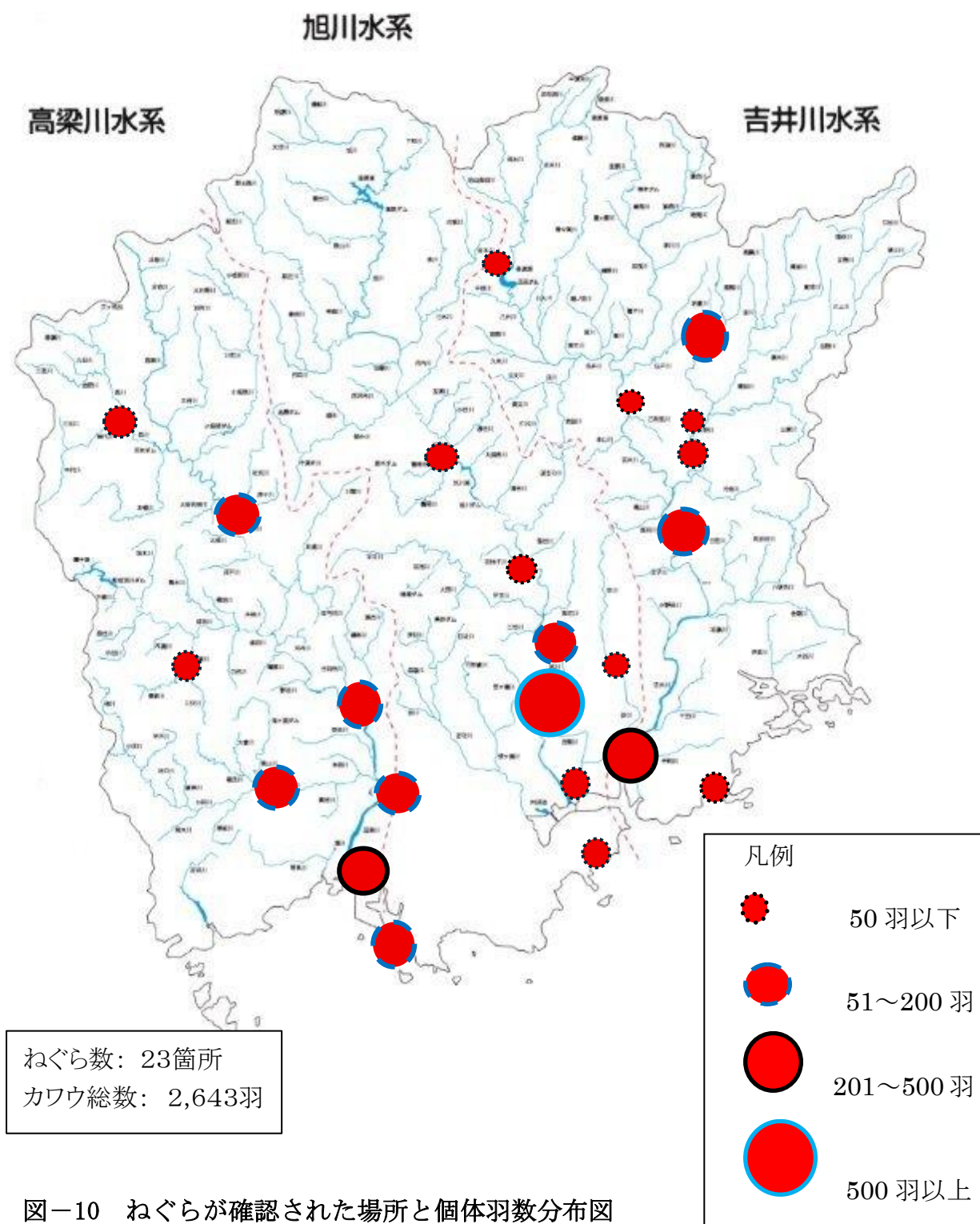
吉井川水系：	3 9 9 羽	（昨年	3 5 4 羽）
旭川水系：	1, 1 7 4 羽	（昨年	1, 1 4 0 羽）
高梁川水系：	8 0 4 羽	（昨年	7 3 6 羽）
海岸域：	2 6 6 羽	（昨年	3 1 9 羽）
総羽数：	2, 6 4 3 羽	（昨年	2, 5 4 9 羽）

本年度の羽数は昨年度より 9 4 羽増加していた。

昨年度は一昨年度より 1 0 羽少ないだけであったのでかなりの増加である。

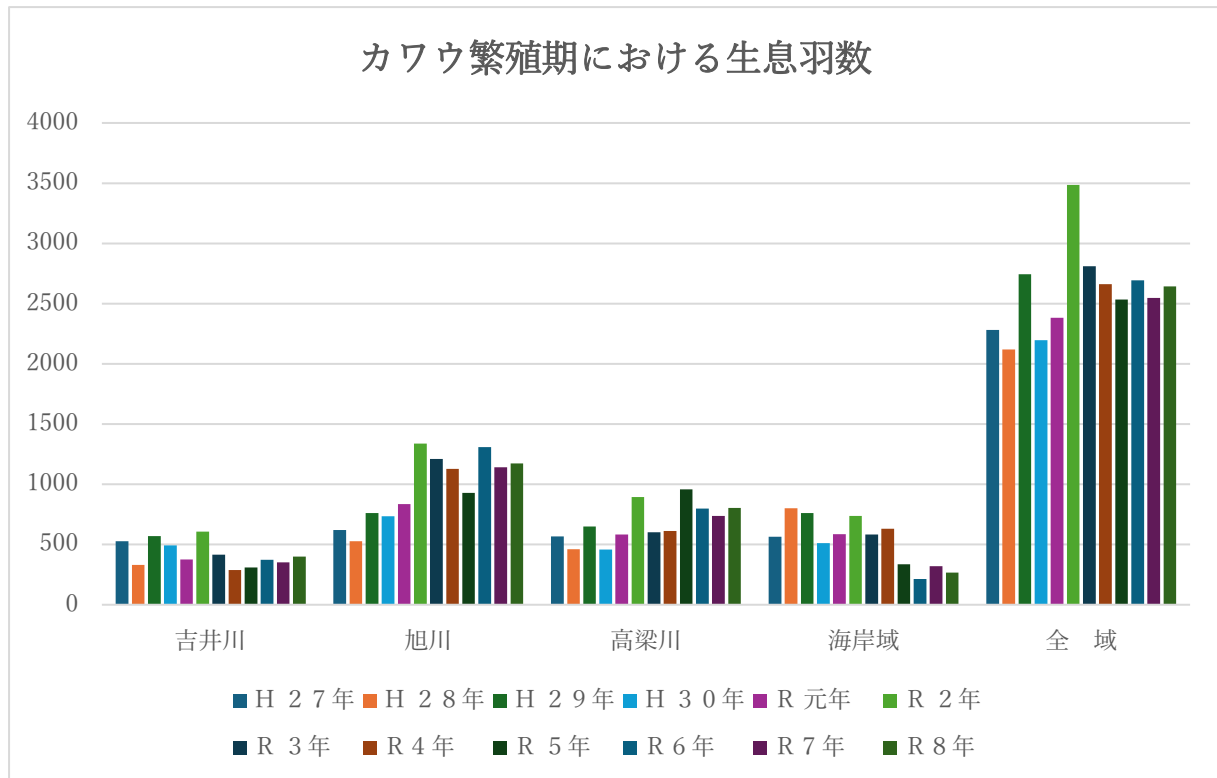
一昨年の羽数は 2, 5 5 9 羽であったのでここ 3 年間の状況としてはその羽数がやや増加したことが伺える。ここ 5 年間を見ても 2, 5 0 0 羽程度を維持している。餌となる魚類の供給量が安定しているのではないかと考える。

4. 確認された「ねぐら場所」とその羽数の大きさ



図－10 ねぐらが確認された場所と個体羽数分布図

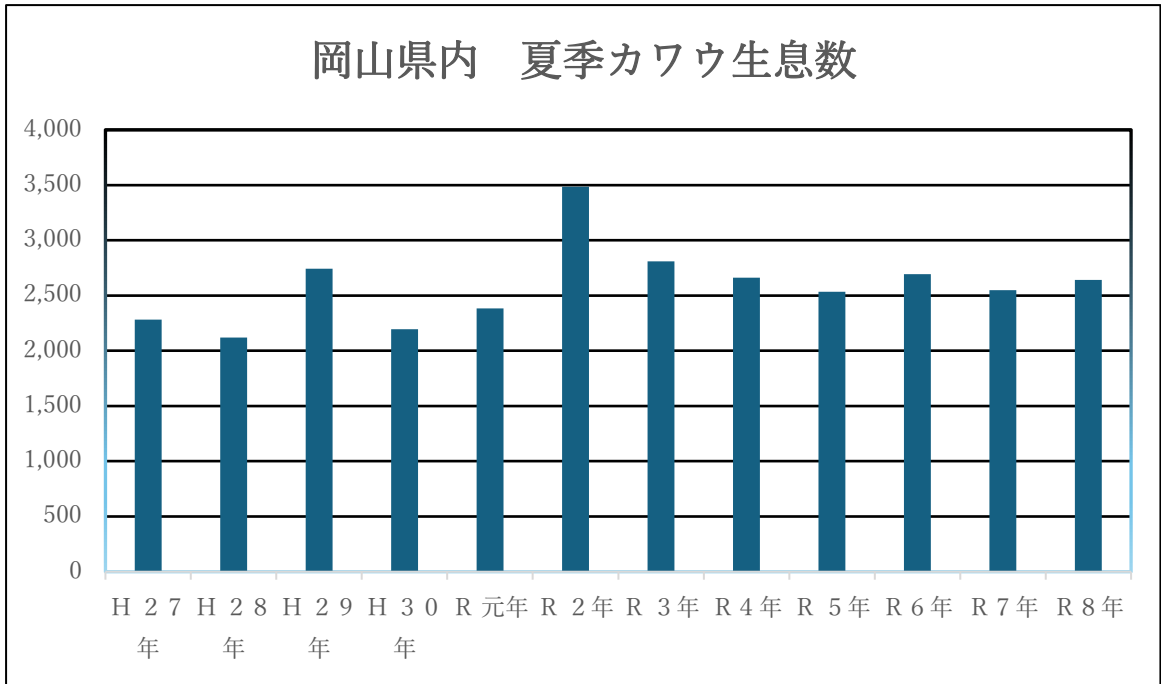
5. 各水系別 カワウ生息羽数 経年変化



図ー11 繁殖期における各河川水系のカワウ生息羽数図

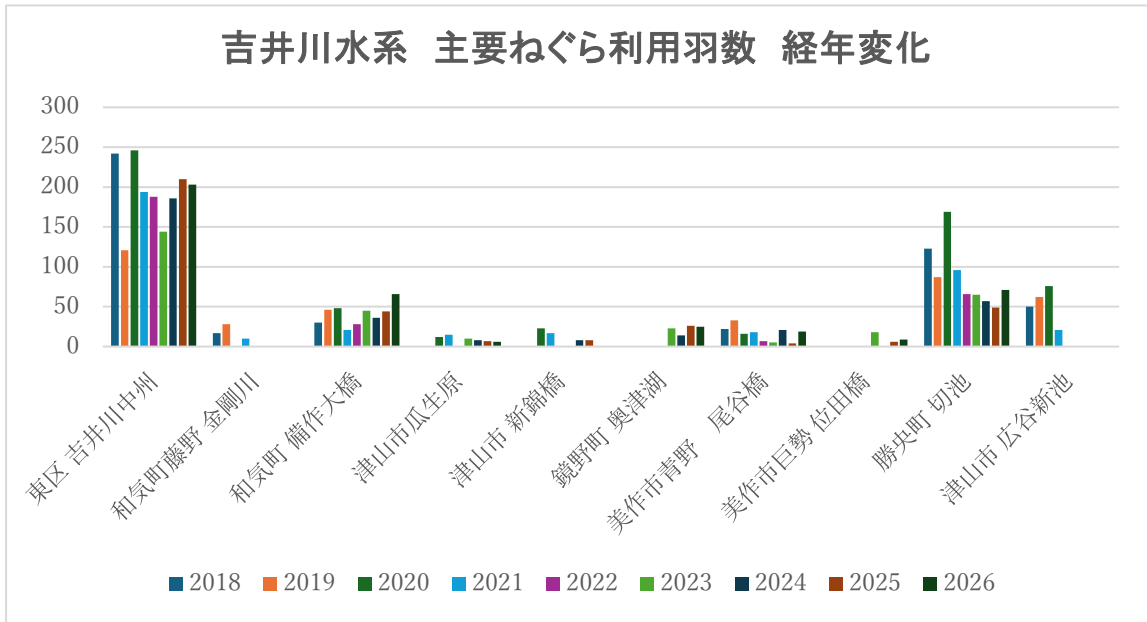
今年度「ねぐら及びコロニー」として利用している場所は 23 箇所であった。昨年は 24 箇所であった。津山市宮尾 新錦橋上流と岡山市北区御津矢原の 2 箇所で利用がなかったが、岡山市中区沖元 百間川河口に昨年は形成されなかったが再度復活した。501 羽以上の大規模なねぐらは、旭川：岡山市中区の三野公園前の中州 1 箇所であった。201～500 羽規模のねぐらは、昨年度は岡山市東区川口 吉井川中州 1 箇所だけであったが本年度は、倉敷市の汐入川遊水池が復活して 2 箇所となっていた。規模が小さくなり 51～200 羽規模のねぐらは 8 箇所（昨年度は 9 箇所）あり、その内高梁川水系で 4 箇所も存在していた。さらに 50 羽以下の小規模ねぐらは 12 箇所（昨年度は 12 箇所）であった。

6. 岡山県全域の夏季カワウ生息数経年変化



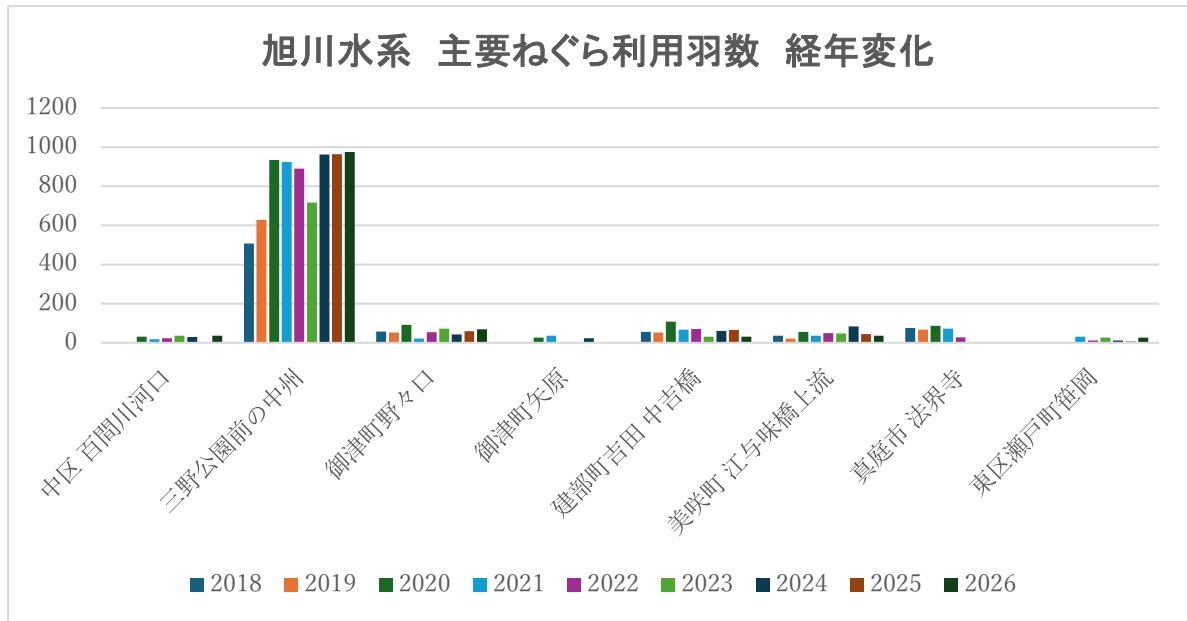
図ー12 岡山県内全域の夏季カワウ生息数経年変化図

7. 各水系の主なねぐらにおける利用羽数の経年変化



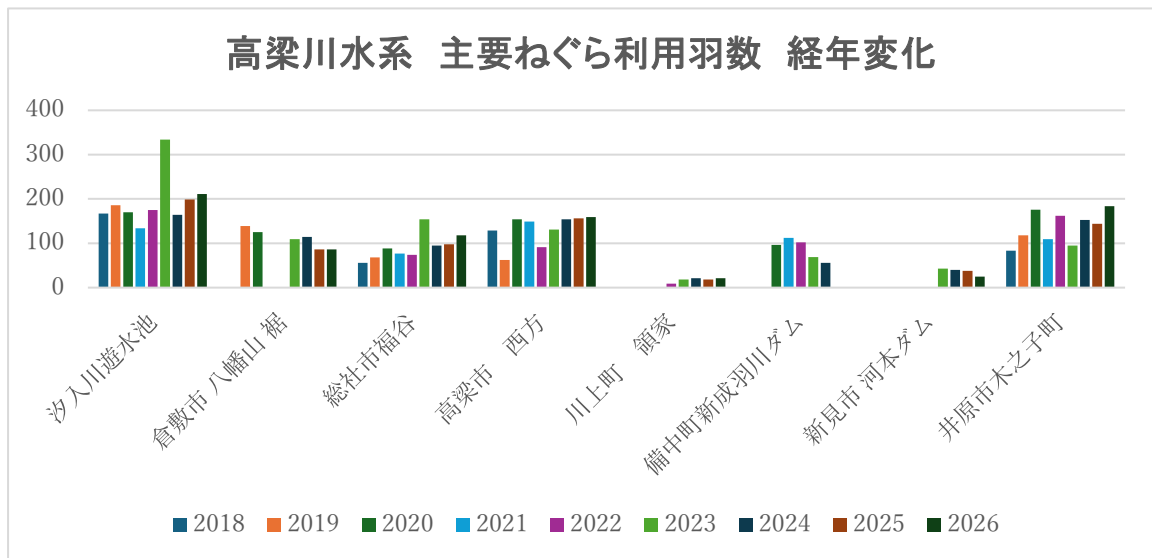
図ー13 吉井川水系におけるねぐらの利用羽数図

吉井川水系においては、県南部の岡山市東区川口の吉井川中州で羽数が最も多く続いて県北部勝央町の切池が多かった。この9年間の記録の中で継続しているねぐらは4箇所ある。途中で途絶えたのは和気町藤野（金剛川）と津山市日本原の広谷新池だった。他は使用したり、利用がなかったりその年により変化があるねぐらであった。



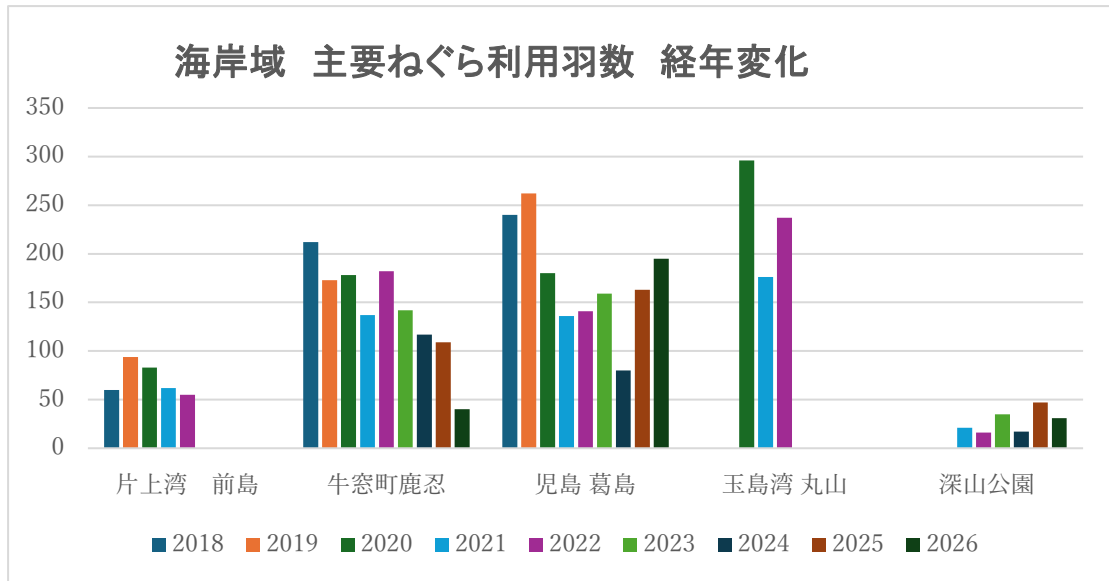
図ー14 旭川水系におけるねぐらの利用羽数図

旭川水系においては、岡山市中区中島三野公園前が最も羽数が多く、続いて岡山市北区御津野々口のコロニーが多かった。この9年間の記録の中で継続しているねぐらは4箇所ある。他は使用したり、利用がなかったりその年により変化があるねぐらであった。



図ー15 高梁川水系におけるねぐらの利用羽数図

高梁川水系においては、突出した羽数を誇るねぐらは無く、かなり分散型である。この9年間の記録の中で継続しているねぐらは4箇所あり、途中から利用が始まったねぐらは4箇所ある。また、新成羽川ダム湖のねぐらは2025年と本年の利用がなかった。



図－16 海岸域におけるねぐらの利用羽数図

海岸域においては、所在する場所がそれぞれかなり距離が離れているためお互いの影響はないと思われ、それぞれ独自の動きが見られる。この9年間の記録の中で継続しているねぐらは2箇所ある。途中で途絶えたねぐらは2箇所、新たに加わったのは深山公園の1箇所である。

VII. カワウねぐら利用羽数について考察

ねぐら及びコロニーをねぐら場所としているのは23箇所（昨年は24箇所）あった。そこを利用する総羽数は2,643羽（昨年は2,549羽）であった。

一昨年は2,559羽であったので、ここ4～5年間ほどは県内に生息するカワウの羽数に大きな変化はなく安定している。（図－12）

その中で900羽以上の規模を誇る旭川の岡山市中区中島のねぐらがその存在が大きい場所である。将来的にこのねぐら及びコロニーをどのように管理していくかでカワウ管理体制が決まるのではないかとと思われる。

吉井川水系の岡山市東区川口の中州と高梁川水系倉敷市水島川崎通りの汐入川遊水池もまた、同じような事例であると言える。

ただし、吉井川の中州コロニーは、カワウ以外のサギ類（アオサギ、ダイサギそして環境省レッドリスト指定種チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギが共存して営巢しているコロニー）で県内でも類を見ない貴重なコロニーである。

以上